



Kitami Mint Memorial Museum

Kitami's economic base was established through the production of mint in its early days. Mint production in Kitami accounted for approximately 70% of the world market at its peak around 1938 to 1939. Mint has been designated as a Heritage of Industrial Modernization for its recognition as a specialty of Kitami and Japan and its contribution to Japan's industrial modernization. At the adjoining Mint Distillation Hall, a fresh mint aroma can be enjoyed.



北見ハッカ記念館

初期の北見の経済的基礎を築き上げたのが「ハッカ」でした。最盛期の昭和13～14年ころには世界市場の約7割を北見産ハッカが占め、北見の、そして日本の特産品としてその名を知らしめました。日本の産業の近代化に貢献したことで、「近代化産業遺産」に認定されています。また、隣接する薄荷蒸溜館では生まれたてのハッカの香りが楽しめます。

北見市の歴史

北国の厳しい自然に苦しみながらも原野を切り拓いた強靱な開拓魂

明治2年7月に北方開拓のために開拓使が設置され、同年8月、蝦夷地は北海道に改められました。

11か国86郡に分けられた北海道のうち、当市の地域は、宗谷を含む「北見国」8郡のなかの「常呂郡」となりました。

「北見」の名の由来は、明治政府に国名を諮問された松浦武四郎が「この地一帯を従来から、北海岸と唱えてきたので、北の文字を用い、カラフト島が快晴の日には見えるので、北見としてはどうか」と進言したことによるものです。

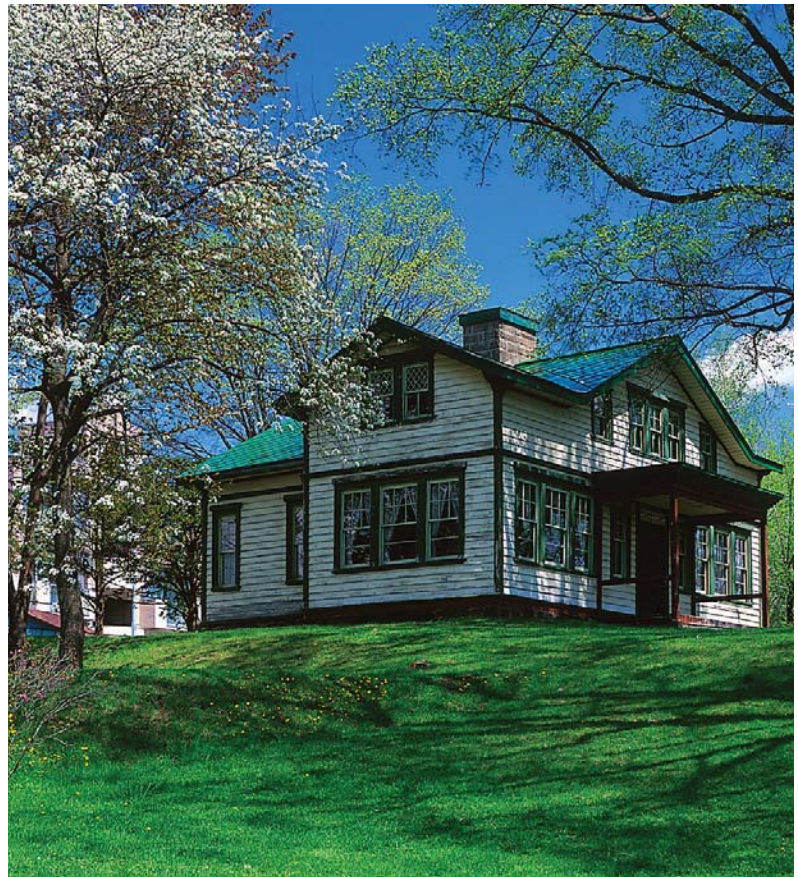


ピアソン記念館

明治21年来日、大正3年に野付牛に移り住んだ米国エリザベス市出身の宣教師・ピアソン夫妻の住宅です。夫妻はここを拠点に、宣教活動や遊廓設置阻止運動に取り組みました。素朴で味わいのある西洋建築はウィリアム・M・ヴォーリス氏によるもので、現在は夫妻の業績を伝える記念館になっており「北海道遺産」にも選定されています。

Pierson Memorial Museum

Mr. and Mrs. George Peck Pierson were missionaries who came to Japan in 1888 from the City of Elizabeth, USA, and moved to Nokkeushi in 1914. Using their house as a base, they engaged in missionary work and a campaign against the establishment of a red-light district. The simple but tasteful Western-style house designed by William M. Vories is now a museum to commemorate their achievements. It has been designated as a Hokkaido Heritage.



北見の今を育んだ先人達の軌跡



屯田兵人形（信善光寺）

屯田兵は、北海道の防備と開拓を目的とし、明治8（1875）年～明治37（1904）年まで、道内各地に入植しました。

明治30・31（1897・1898）年、当時野付牛と呼ばれた北見にも597戸の屯田兵とその家族が移住し、厳しい気候に耐え、未開の土地を切り拓き、現在の北見の基礎を作り上げていきました。

昭和7（1932）年、信善光寺の吉田信静尼がこの屯田兵の偉業を後世に伝えるため、屯田兵人形の制作を思い立ちました。人々の協力の下、名古屋の玉正商会に依頼し、実在の人物を元に75体が制作されました。今も信善光寺に安置・公開されている人形は、屯田兵を知るうえでの貴重な資料として、市指定文化財になっています。

Tondenhei dolls (Shinzenko-ji temple)

Tondenhei (farmer-soldiers) settled in various parts of Hokkaido between 1875 and 1904 for the defense and development of the island.

In 1897 and 1898, 597 Tondenhei families immigrated to Kitami, which was called Nokkeushi in those days. They cleared wild land while enduring the severe climate and built the foundation of present-day Kitami.

In 1932, a nun at Shinzenko-ji, Shinjo Yoshida, came up with the idea of making Tondenhei dolls to commemorate their achievements. With the help of other people, Yoshida asked Tamasho Shokai in Nagoya to produce 75 dolls modeled after real soldiers. The dolls that are still exhibited in the temple have been designated as a cultural asset by the city as they are valuable materials to learn about Tondenhei.



常呂遺跡

常呂地域にはオホーツク海沿岸部を中心に多数の遺跡が残されていますが、中でも特に保存状態の良い地区が「常呂遺跡」の名称で国史跡に指定されています。約128ヘクタールの面積に及ぶ常呂遺跡では、今日でも地表から痕跡が確認できる状態で残る竪穴住居跡が約2,700基見つかっています。遺跡には擦文文化・オホーツク文化など北海道独特の文化の足跡が残されており、北海道の歴史を解明する上でも重要な遺跡となっています。

Tokoro ruins

There are a number of ruins in the Tokoro district, mainly on the Sea of Okhotsk coast. Of these, an area that is especially well-preserved has been designated as a historical site by the national government under the name Tokoro Ruins. At the 128-hectare site, remains of approximately 2,700 pit dwellings have been found and their traces on the ground surface can still be recognized today. Preserving the footprints of Satsumon, Okhotsk and other cultures unique to Hokkaido, it is an important site for uncovering the history of Hokkaido.

■明治5年3月

根室出張開拓使庁管内の村名を定める。常呂郡下にトコロ（常呂）村・チイウシ（少牛）村・トウフツ（鑑沸）村・ムエカヲツ子（生顔常）村・フトチャンナヘ（太茶苗）村・ノツケウシ（野付牛）村・テシヨマナビ（手師学）村の7村誕生

■明治8年5月24日

カナ地名を漢字に改め、常呂村・少牛村・鑑沸村・生顔常村・太茶苗村・野付牛村・手師学村となる。

■明治16年12月1日

常呂村に常呂村外六箇村戸長役場設置し、事務取り扱いを開始

■明治28年5月11日

高知からの土佐団体29戸、常呂村に到着（農業移民の先駆となる）

■明治30年6月7～10日

屯田歩兵第四大隊第一中隊100戸が端野に、第二中隊99戸が野付牛に、第三中隊99戸が相内に計298戸が入地

■明治30年7月15日

常呂村外六箇村戸長役場から野付牛村、生顔常村戸長役場が分離・開庁

■明治44年9月25日

野付牛駅正式開駅

■大正元年11月18日

野付牛～留辺蘂間の鉄道が開通

■大正4年4月1日

常呂村、少牛村、太茶苗村、手師学村の四箇村統合し常呂村二級町村制を施行／野付牛村一級町村制を施行、置戸村、武華村が分村

■大正5年4月1日

野付牛村に町制を施行、野付牛町となる

■大正9年10月

武華村で森林軌道敷設始まる（昭和35年廃止）

■大正10年4月1日

野付牛町から相内村・端野村が分村

■大正10年6月15日

武華村に町制を施行、留辺蘂町となる

■昭和7年10月1日

鉄道石北線、全通

■昭和17年6月10日

野付牛町に市制を施行、北見市となる

■昭和25年11月1日

常呂村に町制を施行、常呂町となる

■昭和31年9月30日

北見市が相内村と合併

■昭和36年9月1日

端野村に町制を施行、端野町となる

■昭和54年4月20日

（旧）北見市人口10万人達成（4月30日：100,092人）

■平成18年3月5日

北見市・端野町・常呂町・留辺蘂町が合併し、新北見市誕生